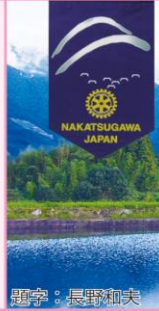


WEEKLY REPORT



Rotary
 2020-21 年度 国際ロータリーのテーマ
 ロータリーは世界の扉を開く
 2020-21 年度国際ロータリー会長
 ホルガー・クナーク
 RI 2630 地区 岐阜東濃グループ



題字：長野和夫

ガバナー補佐訪問

本日の例会プログラム

1. 開会点鐘
2. 国歌斉唱・ソング「奉仕の理想」
3. ゲスト、ビジターの紹介
 岐阜東濃グループガバナー補佐 吉村敏博君
4. 食事と交歓
5. 出席報告、ニコボックス発表、委員会報告、幹事報告
6. 地区出向委員就任挨拶 波多野一夫君
7. 会長の時間
8. 卓話:岐阜東濃グループガバナー補佐 吉村敏博君
9. 閉会点鐘

会長の時間

2020-2021 年

第 63 期 中津川ロータリークラブ

会長 **長野 和夫**

『知足の智慧 足るを知る』



京都には著名な寺院仏閣が数多く存在しております。方丈庭園で有名な竜安寺（臨済宗妙心寺派の寺）というお寺があります。庭石と白い小石を波に見立てた曲線、それと油土塀がわび、さびを彷彿させる庭園です。

石庭とは建物をはさんで反対側に茶室「六蔵庵」があり、その路地にひっそりと古銭のような形をした蹲踞（つくばい）があります。黄門様で有名な水戸光圀公が寄進されたといわれています。

その蹲踞は中央に水を受ける四角形の「口」の文字があり、これを囲んで時計回りに上から「吾」「唯」「足」「知」と刻まれています。吾唯足知（われ ただ たるをしる）と読みます。

これは仏教の釈迦が唱えた教えより発したことばで、「足るを知る人の心は穏やかであり、足るを知らない人の心はいつても乱れている」つまり、全てに満足して、贅沢を考えずに、不平不満を持たずに、今あるもので十分であることを知りなさい。という意味とされています。類似の言葉に孟子曰くとされる「知足長楽」「知足常楽」があるそうです。

この知足の知恵という言葉は、人間の欲を戒める言葉として仏教ではよく使われています。物質的にめぐまれなく



竜安寺 六蔵庵の蹲踞（つくばい）

2020-2021 年度
 岐阜東濃グループガバナー補佐

吉村 敏博君
 生年月日 1949 年(昭和 24 年)8 月 26 日

事業所 東清株式会社 代表取締役
 職業分類 生活環境保全
 所属クラブ 中津川ロータリークラブ
 略歴
 1973 年 三重大学農学部卒業
 1975 年 三重大学大学院農学研究科終了
 1975 年 農林省入省
 1986 年 農林省退省

ロータリー歴
 1994 年 1 月 中津川ロータリークラブ入会
 2005 年～06 年 中津川ロータリークラブ幹事
 2011 年～12 年 中津川ロータリークラブ会長
 マルチプル・ポールハリス・フェロー
 ベネファクター
 米山功労賞第 6 回マルチプル

でも、物事に満足できれば不平不満は除かれ、不満が無ければ感謝につながるという事でしょうか。

京セラの稲盛和夫氏は、環境と経済に関するシンポジウムで、大量生産、大量消費をよしとする経済活動を批判し、「足るを知る」を基本とし、使い捨てでない新しい経済活動に転換することが 21 世紀を生き抜くためには必要だと述べました。現代の発展的経済活動を見直し、経済的拡大はなくとも、自然と強調しながら精神的満足を得られる社会を実現したいという事だとおもいますがいかがでしょうか。

国立博物館の鈴木和義氏は、江戸時代特に元禄年間の人々の営みは、儲けるためではなく人々が喜んでくれることを楽しみに行われていたと解析されています。

本来、日本人はお金より精神的な満足重要視して社会を作ることができるという稀な民族であると論じてみえます。

私には難しいところではありますが、日本の経済において、足るを知って楽しみに満ちた社会を取り戻すことは、コロナウイルスに侵された今では、この閉塞感を立て直す方法の一つかもしれません。

(参考：京都大学名誉教授 渡邊正巳 「足るを知る」を参考といたしました。)